

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

イエス一人のほかには

ブロックアドバイザー 阪下謙



「するとイエスが近づいて彼らに触れ、『起きなさい。恐れることはない』と言われた。彼らが目を上げると、イエス一人のほかには、だれも見えなかった。」

（マタイ一七章7、8節）

「とにキャン」に関わって10年以上になります。忘れられない光景がひとつあります。自由時間中、玄關ホールでおしゃべりを楽しんでいる同じ教会のキャンパーたち数人が、当時流行していた脳内メーカーの絵に自分たちの牧師の名前をたくさん書いて、仲間の一人のことを「頭の中は○○先生のことしかない」と口をそろえて言っていました。確かにそのキャンパーを見ていると、本当に「とにキャン」が大好き、教会も先生のことも大好き、そして何よりイエスさまのことが大好きであることがひしひしと伝わってきました。

この光景を思い出しながら、最近の自分の頭の中はどうなっているのかと反省させられました。新型コロナウイルス感染の収まりが見えない状況で、気が付けばいろいろと困難な問題の解決や、教会の働きをどう進めようかという方法など、そのようなことばかりを考えているなど感じます。また、中国や九州も梅雨時期から夏にかけて毎年豪雨災害が発生していて、今年も心配です。大雨の情報や線状降水帯の位置など絶えず確認しながら、現地の教会や信徒のご自宅は大丈夫だろうかとなかなか落ち着くことができません。まさしく自分の頭の中は、目の前に置かれている問題で満ちているのではないだろうかと思省させられるのです。このよ

うな時、エレミヤのように「あなたは何を見ているのか」という主のみ声が聞こえてくるような気がします。

*

冒頭のみことは主の変貌の出来事の締めくくりの部分ですが、主とともに山の上のいたペテロたちは、主の変貌という突然に起こった信じられない光景を目の当たりにして呆然とし、ひれ伏してしまいました。目の前の出来事以外には何も考えることはできなかつたでしょう。そのようなとき、主は彼らに「近づいて、そして「触れ」て、さらに「起きなさい。恐れることはない」とみ声をかけられました。彼らがやつと落ち着きを取り戻して目を上げてみると、そこにはイエスさまだけがおられるのが見えました。

このことは、私たちの信仰生活や教会の営みにもびつたりと当てはまることではないでしょうか。背負っている重荷で頭がいっぱいになって、目の前の大きく深刻な問題しか見えなくなっているときに、主は私たちに近づき、触れてくださるお方です。そして、「しっかりとしなさい。わたしただ。恐れることはない。」「勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝ちました。」「世の終わりで、いつもあなたがたとともにいます。」「……と、その時になつたことをかけ続けてくださり、私たちに励まし、恵みで覆ってくださいなのです。どんな時でも主に目を向け、そして「イエス一人のほかには、だれも見えなかった」というすばらしい恵みの世界に身を置き続けたいと思います。

目次

- イエス一人のほかには……阪下謙……1
- コロナ禍での教会、コロナ禍セミナー東日本……2
- 竿代信和先生追憶、コロナ禍でのJEA、JEFの活動……3
- 海外トピックス、国内教会局コラム、つばさ紹介……4
- 関東南ブロック近況と祈禱課題、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～10、教育局……11
- 公報、消息……12

BAに聴く コロナ禍での教会……

ポストコロナを展望し 今からの心備えは

関東南 BA 佐藤信行

「恐れないで、ただ信じていなさい。」(マルコ五章6節)

現在、緊急事態宣言やまん延防止などが各地で発令されている段階で、ポストコロナ(コロナ後)を論じるには不確定な要素が多すぎることも事実です。そのような中でも、コロナ禍で既に変化していることもあり、ここでは今後の教会、個人の方に関わる展望を記してみます。

1 繋がること

まずコロナ前と後でおそらく顕著な違いとして第一に残ると考えられるのは、人々が互いに繋がる範囲、規模の拡大です。このコロナ禍で特にリモートの技術、理解が進みました。今までは集まるための距離的な壁が、経済的にも心理的にも大きな障壁でしたが、このコロナ禍で半ば強制的に全体が互いの繋がり、ネットワークについて見直すこととなりました。

これは教会にとっては大きな変化とともに今後活かせるものです。遠方に住む方や病気や高齢の

ために教会に通うことができないうちに繋がり続ける大きな助けとなります。さらには教会に来会する前に、まずリモートで集会に参加することも、今後は考えられます。

2 受けとめること

繋がりが増えることは同時に多様な人と接することになります。今回も分断が問題となりましたが、互いの情報が多く行き交うと、そこには多くの違いが見えてきます。そこで自分の考えを押しついたり、相手の言葉を聞こうとしなければ分断は避けられません。

教会でも繋がりが増える中で、多様な世代、背景、性格を持った人が繋がります。そこではまず違いを受けとめること、互いの言葉を耳を傾けることが不可欠です。

3 一人になること

先述の繋がることと正反対に見えますが、今回のコロナ禍で一般社会でも見直されたのが「ひとり時間」の価値です。みんなで過ごす時間は確かに大切ですが、ひとりで過ごす時間も人にとって大切なことが、これもそうせざるを得なくて気づいたことと言えます。

これは信仰者にとっては再確認したこととも言えます。一人一人が御言葉に触れ、主に祈る。その繋がりが増えるとき、礼拝に表れる。集まる時も集まれないときも、教会の繋がりは互いが主に繋がることで保たれている。繋がりがながら一人一人を大切にできる。このような姿勢が今後の教会形成の指針となることを期待します。

宣教研究委員会及び国内教会局共催

公開Zoomセミナー開催 コロナ禍における教会・東日本

教会はどう乗り越えるのか 経験を分かち合う場に

山口教会 平瀬聡樹

6月14日に続き、2回目の公開Zoomセミナーが28日に開催されました。今回は、東日本が対象で、83名の参加でした。

「個々の教会の実状を知ることが出来、葛藤や悩み、困難などを共有できた事が幸いであった」、「皆さんが同じように悩んでおられると思う、それらを聞けるだけで励ましになり、ホッとしたり」との感想があった反面、もう一方では、「もう少し早く、このようなセミナーがあるとよかった」、「失敗だった面など加えて頂ければセ

ミナーの発題として有効だったのではないかとの声もありました。発題に関しては、「南場師が丁寧に対応されていたことに教えられた」、「細田師の発題にあったZoom特伝には驚いた」などの応答がありました。丁寧な説明の大切さが語られていて、実際の教会の仕方などで反省と共に教えられる面が多かったようです。また、伝道集会が持てない状況の中で、伝道に対するヒントをいただいたとの声が多数聞かれました。

発題の後、16のグループに分かれての分かち合いの時もたれました。どのグループも50分の時間をフルに使って、良き交わりの時間意見交換の時がもたれました。ここでは、病気の方や高齢者への対応、新しい感染症に対する受けとめ方の違い、個人情報扱いの問題・難しさ、コミュニケーション不足、丁寧な説明の不足等が共通した課題としてあげられていました。中でも、「Zoomに入っている人と入れない人との間に壁ができた」、「教会に来られる人と来れない人との壁(温度差)が課題である」との課題や、「礼拝を二部に分けた際に、午後が高齢の方だけにしたこと、寂しさを感じておられることが何われ」、「献金の銀行振込は、平常時から行っていないと難しい」等の実際の現場にあるからこそ具体的な、実際の課題が分か

ち合われていました。そのような中でも、「未信者の家族との対応や関わりができた」、「祈禱会をZoomにした事で出席者が増えた」、「Youtube 配信を始めたこと、教会に来られなかった人や遠方の方が礼拝に参加された」、「多くの行事が中止となったが、改めて、何が大切なのかを考えさせられた」、「第4日曜をコインノニアタイムとし、Zoomで交わりを始めた」、「第3日曜の午後、隣人の会をZoomで開催」、「コロナ前は教会に来られる人対象の牧会だったが、視点を変えさせられたことは意味のあることだった」等、コロナ禍にあつて新たな発見や可能性も見られたようです。

また、「牧師自身のケアの必要」、「コロナに対応した意識改革の難しさ」、「コロナ後、今、教会に来られない方が戻って来られるのか」等の課題が挙げられていました。「アフターコロナについては、色々な見方があるが、元に戻れば良い訳ではない。もっともっと、より一層、考えていかなければならない」との声が心に残りました。教団への要望としては、「今回のような顔と顔を合わせて話ができる機会を、もっと企画してほしい」、「ネット環境の整備・経済支援」、「オンラインで使えるリソースまとめ」、「献金についての教団文書」、「聖餐式の対応」、「教会学校のオンライン配信」等が寄せられました。



追憶

故竿代信和先生

2021年6月17日(召天(享年85))

竿代信和先生追憶の辞

主の愛と信仰に
生き抜いた戦友

田中敬康

「神の言を話した指導者のことを「いつも思い起こさない。現代訳」その生き方から生まれたものをよく見て、その信仰に倣い下さい。」(ヘブル一三・七)

小生の入信後間もなくから今日までの七十年近く、主にある兄弟、同業者、戦友であり続けた竿代信和先生は去る六月十七日の夜に、愛してやまない主の御許に、十年前後の病いとを含む地上の使命を果たして「安らかに凱旋」された。先生は非常に感受性が豊かで、



他の人々の心情に人一倍気配りする繊細さを持っておられました。一方、戦中、御両親が長野で培われた信仰に倣って妥協を許さない純粹さをずっと信仰者として保持された器でした。

伝道に、牧会に、宣教に、託された務めに、明るく、積極的にイムマヌエル教団の「聖宣」に邁進されつつ、特に後継者の養育に折りつつ腐心しておられただけでなく、国の内外の超教派の働きにも広く、よき信仰の友をもって交流しておられました。尊敬すべき多くの模範と挑戦に生きた友のゆえに主に感謝し、ご遺族に天父のお慰めを祈ります。

故人略歴

竿代信和師は、1935(昭和10)年、長野県松本市で生まれました。B.F.F.バックストン師に深い感化を受けた両親(竿代靖兄・益恵姉)のもとで育ち、中学生の時に船橋教会で受洗しました。早稲田大学、聖宣神学院、インドの

ユニオン・ヒブリアル・セミナリーを卒業し、1965年に(旧姓)中村ひろみ師と結婚。同年、教団から宣教師第一号としてインドへ派遣され、4年間神学校で教鞭を取りました。

帰国後は福岡教会で4年間、名古屋教会で35年間奉仕しましたが、特に名古屋教会時代は、マンションだった6階建ての建物を取得し、教会が東海地区における福音の中心のな場所になることを願って、国内や海外から多くのゲストを迎え、様々な働きを活発に展開しました。東海福音フェロシッパや東海聖化交友会など超教派でも多くの責任を担いつつ、教団においては国内宣教局長として二期(8年)、教団代表として一期(3年)、責務を果たしました。

2008年以降は淡路島、神戸へ移動し、徳島教会、姫路教会、和歌山教会の協力牧師として奉仕を続け、2015年に引退しました。2012年に結節性多発性動脈炎が見つかって以来、冠動脈の動脈瘤、脳梗塞、腎機能の低下、透析などのために入院を繰り返して来ました。2020年12月には肺炎も併発、一時危篤状態になりましたが、なんとか持ち直すことができました。その後しばらくは病状も落ち着いていましたが、今年4月の後半から次第に容体が悪化し、6月17日午後、家族と最後の別れの時が対面で許され、同日午後9時21分天に帰りました。85年の生涯でした。(田辺寿雄)

コロナ禍にあって

JEA(日本福音同盟)
多岐にわたる
活動を継続

JEA総主事 岩上敬人

教団から派遣され、日本福音同盟・総主事として3年目の奉仕に入りました。JEAの動向について報告します。

コロナ禍にあって、JEAの存在意義はますます大きくなってあります。コロナ禍にあって私たちは大きな神学的問いに直面しています。教会に集まる意味、礼拝とは、聖餐とは、交わりとは何か、など多岐にわたる神学的な課題について、神学委員会は取り組み、理事会では教団代表者の集いを開催して情報交換を行っています。異端カルトの活動もオンライン上で活発です。積極的に異端カルト情報を発信することもJEAの大切な働きです。宣教委員会では、コロナ禍によって福音派諸教会にどのような影響が出たのか、統計を取り、分析をしつつ、今後の伝道の方策、教会の在り方を模索しています。また2023年の第7回日本伝道会議に向け、準備を進めています。女性委員会では、コロナ禍にあって、孤立しがちな女性の繋がりと交わりを促進するため「かたりば」を開催しています。青年委員会もコロナ禍における青年、次世代育成に奮闘中です。

JEF(日本福音連盟)

ホーリネス諸教団
との協力を掲げて
さらなる連携を

教団代表 岩上祝仁

日本福音連盟(JEF)は聖書の発行団体として、きよめ派諸教会の交わりを目的として1951年に設立されました。イムマヌエルの群れは2013年にその交わりの中に加わりました。

聖書信仰に基づく教会の交わりが日本福音同盟(JEA)とするならば、聖化交友会(JHA)はきよめの恵みについて、きよめ派の人による交わりが中心です。一方、日本福音連盟(JEF)はもう少し大きな枠で「きよめ派の教会」の交わりが主体です。毎年6月に教団指導者が年に一度集まって、交わりを行うこと、同時に全国の地区において総会・聖会を開催すること、「きよめ」の恵みを地域教会に広げてゆくことを目的としています。最近では徳島・大阪・松江・山形などの諸地域で総会・聖会が開催されました。また、「きよめ」派の神学校が協力体制をとり、年一回の神学校の合同リトリートを開催してきました。昨年・今年とコロナのため総会と聖会は開催が見送られました。来年こそは福岡大会を開催されるようにお祈りいただければ感謝です。

国内教会局から

コロナ禍にある教会 具体的でリアルな礼拝

10年ほど前になりますが、礼拝献金の持ち方について、賛美しながらの献金はどちらでも集中できないという意見が出され、教会総会で話し合いの時を持ちました。その時ある信徒の方が「私たちにとって献金は最も具



体的な礼拝です」と言われました。主へのささげ物をリアルな礼拝として真剣な姿勢で臨んでいることを知らされ、身が引き締まるような思いがしました。話し合いの結果、奏楽のうちに献金、その後に賛美をするという、それぞれを独立したプログラムになりました。緊急事態宣言やまん延防止措置など地域によっては

集まれず、PCやスマホの画面を通して礼拝を守っている方もおられると思います。自宅の一室を礼拝の場とするのは何かと困難が伴います。そのような中でも、具体的でリアルな礼拝をささげられるように、主がその場所を聖別されます。ですから私たちは襟を正して真剣にリアルな礼拝をささげましょう。(阪下謙)

■入植活動関与、とノルウェー年金基金が投資対象から16社除外
オスロ発ロイター通信によると、ノルウェー最大の年金基金KLPは、仏アルストムや米モトローラ・

違反だと指摘している。イスラエルは異議を唱え、聖書の記述や歴史的な結びつきに言及。KLPは、投資対象から外した通信や金融分野などの企業について、イスラエルの存在を高めることを助長し、

3100年前の土器片がイスラエルで出土、「士師記」関連の文字
時事通信は、7月13日、イスラエル南部キリヤットガット市近郊のキルベット・エル・ライ遺跡でこのほど、約3100年前の土器片が出土したと伝えた。土器片には、カナン語で「ジェルツバル」とインクで書かれていた。これは、聖書「士師記」の時代のもので、こうした発見は初めてという。

毎月、教団より信徒の教養誌として「つばさ誌」が発行されているのをご存知でしょうか。信仰を持たれてまだ間もない方、また以前は購読していたけれど、という方のために、改めてその内容をご紹介します。

今年になって、表紙だけでなく、表紙の裏面もカラー印刷になりました。そこには「花と大地と祈り」という連載で、クリスチャン詩人八木重吉の詩と季節の花々がやさしいタッチで描かれています。

また、7月号からは、新しく「つばさに乗って聖地旅行」という連載が開始されています。現地の写真、地図などが見ながら、紙面上で聖地旅行を疑似体験するというコンセプトのもと三森先生がツアーガイドとして案内してくださっています。さらに最終ページには、読者からクリスチャン川柳が投句され、信仰生活の喜びや楽しさが交わられています。

■サグラダ・ファミリアがコロナ禍で収入減り26年の完成見込めず
バルセロナ発ロイター通信は、同地にある世界的観光スポット、サグラダ・ファミリアの完成予定時期が、新型コロナウイルスの影響を受けて2026年からさらにずれ込むことになったと伝えた。

ユネスコ世界遺産のサグラダ・ファミリアは、海外観光客の急減で大きな打撃を受け、収入が激減。作業が9カ月間停止している。施設責任者のザビエル・マルティネス氏は、「26年の完成を見込んでいたが、残念ながら不可能だろう」と指摘、正確な時期は言えないとし、コロナ禍前の収入水準を回復し、建設ペースが戻るには時間がかかる」と述べた。

■3100年前の土器片がイスラエルで出土、「士師記」関連の文字
時事通信は、7月13日、イスラエル南部キリヤットガット市近郊のキルベット・エル・ライ遺跡でこのほど、約3100年前の土器片が出土したと伝えた。土器片には、カナン語で「ジェルツバル」とインクで書かれていた。これは、聖書「士師記」の時代のもので、こうした発見は初めてという。

「これが私の生きる道」は、兄弟方や先生方の証しが載せられています。人生は一度しか体験できませんが、私たちは証しを通して他の人の人生を追体験することができ、人生はより豊かになり、信仰者としての新しい視点も与えられます。

また「キリスト教会のあゆみ」という連載では、これまでの教会歴史が親しみやすい語り口で掲載されています。今のキリスト教は、2000年の歴史の上に積み上げられているものです。歴史を知ることが、今のキリスト教会の在り方がどこから来ているのかを知ることであり、同時に失敗や危険を学ぶことでもあります。

また、7月号からは、新しく「つばさに乗って聖地旅行」という連載が開始されています。現地の写真、地図などが見ながら、紙面上で聖地旅行を疑似体験するというコンセプトのもと三森先生がツアーガイドとして案内してくださっています。さらに最終ページには、読者からクリスチャン川柳が投句され、信仰生活の喜びや楽しさが交わられています。



海外トピックス

ソリューションズなど16社について、イスラエルのヨルダン川西岸の入植活動に関与しているとして、投資対象から外すと発表。ノルウェーは他の多くの国同様、イスラエルによる入植地建設を国際法

国際法違反のリスクがあると指摘
KLPの倫理指針にも反しているとして。KLPの運用資産は第1・四半期末時点で700億ドルだった。2億7500万クロウネ(3181万ドル)相当の株式を売却し、6月末に手続きを完了した。モトローラとアルストムは債券も売却したという。

読書の

ひろば



信徒のための教養誌

「つばさ」

より深く、より豊かな
信仰生活のために

聞く。教えて先生」は、信仰者の疑問に、引退された先生方が豊富な経験をもとに知恵深い回答を寄せてくださっています。

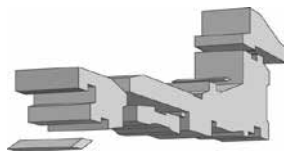
「これが私の生きる道」は、兄弟方や先生方の証しが載せられています。人生は一度しか体験できませんが、私たちは証しを通して他の人の人生を追体験することができ、人生はより豊かになり、信仰者としての新しい視点も与えられます。

また「キリスト教会のあゆみ」という連載では、これまでの教会歴史が親しみやすい語り口で掲載されています。今のキリスト教は、2000年の歴史の上に積み上げられているものです。歴史を知ることが、今のキリスト教会の在り方がどこから来ているのかを知ることであり、同時に失敗や危険を学ぶことでもあります。



つばさ誌は一部220円。バックナンバーもあります。希望される方は教会の先生を通してお申し込みください。(細田恒太郎)

国内教会局 スクエア



関東南ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

佐藤信行

●東関東教区(北田直人主事)

春の教区会は2グループ(会場に集まるグループと各教会からオンラインで参加するグループ)で行ないましたが、ハウリングが起きたりして、次回は各自オンラインで参加するようにしました。

教区聖会(講師 古波津保秀師)。残念ながら、昨年は中止しましたが、今年は11月3日に会場を借りて行います(状況によってはオンラインに切り替える予定)。まん延防止等重点措置が繰り返される中、各教会では各自にふさわしい対応をしています。既にオンラインを活用している教会もありますが、今後活用するために準備を進めている教会もあります。

祈りの課題 異動のあった教会と牧師(島田貴子師、竹内俊之師)のために 夏からクリスマスに向けての各教会の予定を実施することができるよう 制限のある中、求道者が起こされ、救いに導かれる方が起こされるように 牧師、信徒の信仰と健康が守られるように 経済の必要が満たされるように 聖会の実施のために。

●東京教区(野田禎主事)

東京教区では神奈川教区と合同で林間聖会を8月9日(月・祝)にオンラインで行います(林聖HPは <http://fujimida:holly.jp/rinsei2021HP/index.html>)。深川教会では礼拝はオンラインを併用、お祈り会と伝道会はオンラインのみで行っています。中目黒教会では礼拝はYouTubeと対面併用で、祈禱会・組会などはZoomで、CSはYouTubeとZoomを利用しています。

白鳥教会では礼拝は月2回、深川教会のZoom礼拝に参加、残り対面で、DVDも活用しています。王子教会は配信中心で家庭礼拝が続いています。板橋教会は教会堂の建て替えに取り組んでいます。経済的な必要のために。富士見台教会はZoomと会堂のハイブリッドで、礼拝とその他の集会を守っています。武蔵村山教会は7月から対面礼拝を再開して、7月中旬から平瀬義樹師が合流しています。立川教会では礼拝はライブ配信を併用していま

す。王子教会は説教原稿を送り、メールや電話を通して近況を確認しています。甲府教会は礼拝と祈禱会を休止せずに継続しています。諏訪教会では集会はマスク着用、換気、距離を意識して継続しています。

●神奈川教区(矢木良雄主事)

東京都に緊急事態宣言が出され隣接する神奈川県もこの状態ですとまん延防止特別処置から切り替わる可能性があります。またしても礼拝出席の自粛が必要になりそうです。近況……横浜教会では6月に小学生の方が受洗されました。会堂補修のために積立献金をしています。礼拝は感染対策をしながら守っています。同時にオンラインでの配信もしています。高津教会は藤本幸子先生、栄造先生を相次いで天に送られました。礼拝はほぼオンラインでのライブ配信で行っています。この配信が多くの教会で活用されて感謝です。

神学院教会は4月に牧師の異動がありました。河村從彦先生、みち先生をお送りし、田辺寿雄先生、宣恵先生が着任されました。6月から午前と夜に祈禱会を行っています。7月から対面の礼拝を再開しました。桂町教会の礼拝は近所の皆さんが集っています。他の方にはオンラインで配信しています。信仰の継承を願い、6月に召天者記念礼拝を行いました。蕪山教会はほぼ全員の方が礼拝出席しています。細心の感染予防を行っています。皆さんをお迎えています。

疲れには2種類あります。良い疲れと悪い疲れです。良い疲れとは肉体的な疲れです。趣味のスポーツをした後の筋肉痛、職場の仲間と団結して迫り来る納期を乗り越えた後の疲れ、休日子どもたちと全力で遊びその寝顔を見た後に感じる身体の重さ、重い課題の中祈りつくして、感じるだるさです。一方悪い疲れは「職場の上司とうまくいかない」「上司と部下の間の板挟みになって悩みが尽きない」「仕事を頼まれたら断れず、自分のスケジュールが後回しになる」「職場にも家庭にも居場所がない」「子育て、介護が重なって自分の時間がほとんど取れない」という精神的な煮詰まり感です。この悪い疲れが溜まると、横になって休みます。しかし、たくさん寝た割にはすっきりせず、さらに、もう少し休みます。その結果、停滞した血液が滞り、脳に溜まった疲労物質が取れない状態になり、慢性的な疲れに移行していきます。悪い疲れに対する対処方法はアクティブレスト(積極的休養)です。寝だめしようと思わず、なるべくいつもと同じ時間に起床・就寝する。事前にいくつ

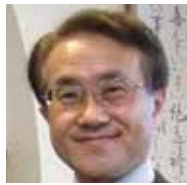


アクティブレスト (積極的休養)

かの予定を自発的に立てて、自発的に行う。これで体内の血流がよくなり、疲労物質が体外に出ます。試しに汗をかく程度のウォーキングをしてみました。確かに次の日の朝、スッキリしています。イエスは十字架に掛かる直前沢山の悪い疲れをためておられました。弟子の裏切り、十字架を理解してもらえない孤独、心えられない祈り、死にたくなるほどの悲しみ。その中で「立ちなさい。さあ、行こう」と弟子たちに声をかけます。コロナ禍の中、思うように事が進まない、試練の中で身動きが取れない、職務の責任の重さ、あるいは失敗、信仰を休ませたくなる材料に満ちています。でも、こういう時にこそアクティブレスト。祈り、聖書を読み、イエスは必ず最善に導いてくださると思いついて信じます。次の日の朝、心配、不安、恐れ、嘆きが体外に出て行ったことを感じます。イエスは私たちの「悪い疲れ」をよくよくご存知で、「立ちなさい。さあ、行こう」と声をかけられます。その行先は経験したことのない安息と平安です。「立ちなさい。さあ、行こう。」(古川恵子)

巻頭言

道は開かれる



世界宣教局 野田 禎

「なんと多いことでしょう。あなたがなさった奇しいみわざと私たちへの計らいは。」

今回は台湾のことと、IWF (イムヌエル) (詩篇四〇篇5節)

広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions



世界宣教局

http://www.immanuel.or.jp/world/

ンヌエル・ウエスレアン連盟) のことについて記します。 私たちIGMは先月、久保先生ご家族を台湾に送ることが許されました。コロナ禍で一体いつビザが下りるのか、いつ出発できるのかもわからない中、紅海を分けてくださった神様は、先生方の行く道を開き、進ませてくださいました。背後には全国の教会の祈り、そして台湾に残り、受け入れをしてくださっていた平瀬義樹先生と台中教会の祈りがありました。 神様のなさった奇しいみわざを心から感謝します。続けて台湾の地のために祈りください。 さて、教報『広げた翼』では、IWFの宣教師からお言葉をいただくことになりました。最初はグローバル・パートナーズのロビン・

ホワイト宣教師です。世界宣教局はこれからIWFの宣教師とますます連携を深め、福音を伝えていくことを強く願っています。

ところで、IWFって何かと思われるでしょう。インヌエル・ウエスレアン連盟のこと、GP (グローバル・パートナーズ、旧ウエスレアン・ミッション)、WGM (ワールド・ゴスペル・ミッション) とIGM (イムヌエル総合伝道団) による宣教協力の働きです。最初、GPから初代総理 葛田二雄師に「個々の宣教団体や教団が独立して働きを進めるより、むしろIGMと共同戦線を張ること」との申し出があり、年会での承認を経てIWFが結成されました。その後WGMが加わり現在に至ります。

【参考】 詳しくは『IWF 50周年記念—インヌエル・ウエスレアン連盟の50年宣教協力の実験—(イムヌエル総合伝道団発行)をお読みください。2002年にIWFは50周年、2022年には70周年を迎えます。



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2021年7月7日

6月は今まで書けなかったことに字数を、と書いていた矢先、ピクトリア湖周辺の13カウンティ(都道府県のようなもの)がホットスポット(要注意地域)になったと一報がありました。病院のあるポメットも含まれ、夜間外出禁止の時間帯が長めになり、教会の集会を含めた一切の集会在禁、他の地域との行き来を制限、と差異がつけられました。 それまでもあった患者さん一人につき面会者は一日一人まで、がなかなか守られずじわじわ増えてきていた所、その発表があった翌日はさすがにいいほどに院内に人がおらず、政府発表の効果があつて良かったと思えました。一月の感染率2%、二月に22%、現在ホットスポット地域は60%だそう、このまま自粛体制が保たれればと思えました。 病院から8キロほどの町ポメットで、マスクを手に持っていたが口の所に付けていなかった人が逮

捕されたというニュースが入りました。厳重注意で解放された以外に詳細は書かれていませんでした。がテヌウェク関係者だったそうで、その話を持ち出すと緩みかけていたマスクの習慣もしゃんとなくなりました。それだけ警察関係もできる事を最大限しようとしている事がうかがわれ、スタッフの移動等が夜間外出禁止令の範囲に引つかからないように気をつけています。車の調整も兼ねて少しずつポメットの町に出て手術室に必要な物品の買い出しなどしていたのですが、しばらく中止することにしました。 病院内の教会の礼拝は、出席者が室内の三分の一以下、という制限から一切禁止になったので、二部制にしてフェイスブックでも中継、という体制から、またネットワークのみになりました。ただユーザーを使うようになったので、今までよりも途中で止まってしまふようなトラブルが少なくなつたように感じています。 そうして集会や外出制限をする中で、インヌエルの女性セミナー、YSB、コロナ禍における教会のセミナーに出席を許され、先生や兄弟姉妹方のお顔を近しく拝見し、祈っていただけだったことは感謝でした。負荷を下げるために自分の顔出しを制限したりもしましたが、「あー、〇〇先生だー」と拝見するだけで恵まれて、人は不思議な生き物だなあと改めて思った事でした。 ■



TAIWAN

台湾

久保光彦・せきな*2021年6月8日

5月18日から続いていた入境後の在宅隔離は、6月8日24時を持って無事に三週間が終了しました。背後のお祈りを感謝いたします。

6月8日に台湾全体の三級警戒が月末まで延長されました。さらに6月23日には7月12日までの再延長が発表され、当面三級警戒は続く見込みです。6月末にはデルタ株感染の報道もなされ依然として警戒ムードの中にあります。

三級警戒の発令中は対面での礼拝は禁止で、オンライン配信のみとなります。そのような中でしたが、6月13日は台中教会の礼拝で初の講壇のご奉仕を務めることが許されました。教会の皆様も温かく迎えてくださいました。

宣教師査証(ビザ)と合わせて台湾での居住に必要な居留証(ARC)も無事に発給されました。本来であれば次に運転免許も、となりませんが、必要となる日本の免許の中国語訳を作成するためには

台北の日台交流協会(大使館に相当する部局)に行く必要があります。しかし新型コロナウイルスはとくに北部での感染が顕著なため当面は台北行きを見合わせるのが賢明と判断しており、台中への領事出張も中止されていたりするので、取得に時間がかかる可能性があります。

6月23日には前任の平瀬師の離任の挨拶と久保の着任の挨拶のために台南聖教会を訪問することが許されました。台南聖教会は私の招聘状を発行してくださった教会です。この招聘状が無いと査証の申請ができません。宣教師としての入国もできません。招聘状の発行についてのお礼を主任牧師の高先生ご夫妻にお伝えし、日本語礼拝の川路伝道師、またスタッフの皆さんともご挨拶することが許されました。そのことの短い紹介は台南聖教会のYoutubeで紹介されています。

(Youtube.com/watch?v=Ag5D2PYEto) 隔離期間が終わり、買い物などにも出るようになりました。貨幣単位も違い、地理も不案内で、言葉がとにかく不自由ですので、戸惑うことも多いですが、少しずつ台中の空気になじんでいけたらと願っています。長女も無事に現地の日本人学校に転入することが許されオンライン授業が開始されています。早ければ新学期の9月には、実際に登校してお友だちと「実際に」出合える見込みです。それまではずっとタブレットとらめっこしなければならず、傍目に

見ても一年生には酷な学習環境ですが、守られますようにお祈りいただけますなら感謝です。



CAMBODIA

カンボジア

薦田緑乃*2021年7月2日

カンボジア宣教報告を認めるに当たり「ほむべきかな、主。日々私たちの重荷を担われる方。この神こそ私たちの救い……」(詩篇六八・19)に心からアーメンと和しながら、まず主への感謝と皆様のお祈りに感謝いたします。

ヴァンディ家の地上大蔵大臣、奥様のテス師のお仕事のために祈っていただきましたが、仕事が願っていた形で戻ってきました。

しばらく前に、テス師は強いられたい形で辞職しましたが、大学の校長兼オーナーが自国マレーシアにおいてコロナにより亡くなり、大学側から半日だけの在宅テレワークでよいから職場復帰をと乞わした。8月から仕事開始、となりました。祈っていた通りの条件でのオンラインの勉強を見ながら家

事をし、御奉仕にも加われるようになりしました。主は生きておられる! 反面、サタンの攻撃も手を変え品を変えてきます。現在の問題は隣の家がバーを開店し明け方まで酔っ払いの大声で眠れない状況になっているとの事。このお店が(オーナーが救われて!)閉じられるようにお祈りください。

もう一つの祈りの課題は、ある夜ヴァンディ先生が夢でお父様が救われずに亡くなり号泣している自分の声で目覚めました。とりあえず主を仰ぎ、故郷を訪れ御家族を集めて日曜日の礼拝を捧げ、父の日だったのでお父様に神様の愛を示すべく好物の高額な果物ドリアンを購入し、神様の愛の形をもって示し、伝道の時を持ちました。心は開かれてきています。ヴァンディ師曰く「神様は決して父のたましいを見捨てなさない」と信じています。必ず心に認罪の光と十字架の恵みの光が届く日がある事を信じて祈っています。「耳が聞こえづらく、益々福音を聞きにくい状況となりましたが、主がお父様の心に新創造の御業を成し



ヴァンディ師とお父様

遂げてくださったと心から主を賛美できる日を待ち望みつつ、お祈りの御支援を引き続きお願いいたします。皆様方が「執り成しの座に座る宣教師」として尊いお働きを続けてくださる事に心から感謝しつつ誌面が尽きましたので来月まで失礼します。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2021年7月7日

教育局長アキノ先生からウェスレアン聖書大学各校(ロザリス、コーディレラ、パラワン、ヴィサヤン、カバカン)の先生たちに声が掛けられ感謝祈禱会をZOOMで開くことができました。18名の先生たちが集い、局長からの先生たちの働きを労うメッセージ、各学校、先生たちによる感謝の証し、直面している課題の分かち合い、最後には皆で折り合い終えることができました。コーディレラ、パラワン、ヴィサヤン校では学生たちを受け入れられず、またオンラインでのクラスもできない状況でした。カバカンでは学生たちを

IWF 宣教師紹介

ロビン・ホワイト、陽子宣教師



皆様のお祈りを心から感謝いたします。これまで準備を進めてきたオンライン漫画ミニストーリー (Drawbridge Creations) の最初のプロジェクト「Waypoints ~分岐点・そこにある出逢い~」がいよいよ8月に始まります。

これは福音書に書かれている、イエス様についての話を元にした短編漫画シリーズです。それぞれのストーリーは、イエス様に出会って人生が変えられた人達の視点から描かれ、漫画家それぞれのスタイルを生かして制作されます。インターネット上で無料で読める連載マンガとして発信していきますが、将来的には単行本としてを出版することを目指します。8月13日からこの漫画を Waypoints.jp で読めます。ミニストーリーのビジョン等詳細は DrawbridgeCreations.com で読めます。どうぞ続けてお祈りください。

キャンパスに留まらせ、対面でのクラスを持つことができませんが、新学期は同様のことができれば分らないとのことでした。おそらく迎える新学期は対面での授業が許されない状況でオンラインクラスが行われることとなるかもしれません。コロナ禍で迎える2年目の戦いのためにお祈りください。

宣教師ビザのためにお祈りいただきありがとうございます。代理人より宣教師ビザが更新されたという連絡を受けましたが、これから外国人登録証の手続きに入るためにパスポートと外国人登録証が私たちの手元に届くまでにはあと1、2ヶ月かかるとのこと。引き続きお祈りください。

フィリピンでは最前線で働く人々、高齢者へのワクチン接種が始まっています。現在のところ必要回数のワクチン接種完了された割合は2.4% (日本は12.9%) となります。

邦人で、在留先でのワクチン接種に懸念を有し、日本に一時帰国してワクチン接種を行うことを希望する人々を対象に、成田空港及び羽田空港においてワクチン接種事業を8月から来年1月上旬まで実施すると報告がなされました。私たちもできれば一時帰国しワクチンを接種する予定です。

日本に一時帰国できるかどうかは分かりませんが、世界宣教局より配慮をいただき、私たちは8月より長期休暇(サバティカルリーブ)を取るようになりました。宣教師の働きは一期4年と定められていました(現在は3年)、私たちは第三期の6年目に入っています。神様の恵みと皆様のお祈りに支えられ、ここまで来ることができました。本来なら日本で巡回報告のために帰国し、リフレッシュし第四期を迎えたいところだったのですが、コロナ禍でその

ことも適いませでした。聖書大、またウエスレアン教会にも理解していただき、宣教師館に留まりながらフィリピンでの宣教活動を今年12月まで休止させていただきます。この間、次期の働きに向けて霊肉ともに整えられるようにお祈りください。



■会計報告6月分
宣教献金 一、二三八、三九五円
月平均 一、七三九、三七六円

お祈りの課題

フィリピン(豊田)

- ◆ 新学期(8月)に入る聖書大学の学生たちと先生たちのために
- ◆ ウエスレアン教会の霊的、経済的な必要のために
- ◆ 事故、事件、怪我、過ち、災害、病气、疫病から家族が守られるように。常喜の右目網膜(網膜静脈閉塞症)の回復のために
- ◆ 台湾(久保)
- ◆ 三級警戒が続く中であっても、教会員や関係者が守られ強められ続けるように
- ◆ 牧師の交代を経験した台中教会が主にある一致をいただき、さらに祝福され続けるように
- ◆ 牧師家族が現地の生活に順応できるように

- ◆ 長女のオンライン授業が守られるように
- ◆ 帰国された前任の平瀬師の隔離期間が守られ、新任地の奉仕が祝されるように
- ◆ 香港(鹿島)
- ◆ 引き続き集会人数制限が出されている中、13年目の歩みの中にある教会が主の大きな恵みによって前進できるように
- ◆ 新しく礼拝にいられている方々や経済的な戦いの中を通されている教会員の方々のために、豊かな導きと助けが与えられるように

◆ 近隣の感染が大分落ち着いて来ているので、次のステップが開かれるように

◆ 7月1日に24回目の返還記念日を迎えました。国安法の下にある香港社会の平和と政治的安定のために

ケニア(島田就子)

- ◆ 要警戒地域に指定されたがここまで守られた感謝
- ◆ ウイルス関連の様々な長期ストレスの中にある患者さん、ご家族スタッフのため
- ◆ 麻酔科、整形外科を始めとする働き人(ルカー〇〇?)が起これるように
- ◆ カンボジア(島田緑乃)
- ◆ KCC本部の隣りに開店したバーが主の御手によって福音を受け入れて閉じられ、近隣に福音の御業が進められるように
- ◆ 獄中に留められているパウロ兄が獄内で福音の使者として立つことができるように
- ◆ テス先生の新しい働きが許され、感謝! 8月から開始するお仕事のため、よきキリストの僕としての証しながされるとともに、引き続きタビデ君の教育費が与えられるために



聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

あらゆる慰めに満ちた神

院長 ● 林 正弘

「私たちの主イエス・キリストの父である神、あわれみ深い父、あらゆる慰めに満ちた神がほめたたえられますように。」

(第二コリント一・3)

昨年「特別な夏」だということ意識しながらこの期間を過ごしました。確かに、教会のことだけを考えても、聖会やキャンプなどの恒例行事の多くが中止になりました。今年も「特別」には違いないのですが、この状況にある程度慣れ、昨年とは違った過ごし方をしているように思います。昨年は少し短縮された夏期実習も、今

年はいつもと同じ8週間で行われようとしています。どのような状況であれ、学ぶべきことが多い夏期実習です。ぜひお祈りに覚えていただきたいと思います。

*

実習を含め、私たちの信仰の歩みには困難がつきものです。苦しんだり、疲れ果てたりすることもあります。だれが見ても大変な状況もあれば、その人でなければ分からないいづらさもあります。開拓教会での実習で、炎天下チラシ配布に明け暮れて体力の限界を感じることもしばしば、責任ある務めを与えられてその重圧に苦しむこと

もありません。頭では分かっているもその通りにはいかなない現実もあります。

しかし、どのような困難があったとしても、私たちにあらゆる慰めに満ちた神がおられます。この方は、ことばだけでなく、実際に助けを与えてくださいます。また、苦難に耐え抜く力を与えてくださいます。苦難が大きければ慰めも大きいのです。私たちが力を使い果たしてしまい、これ以上忍耐できないと思うとき、そこに父なる神の慰めがあります。苦難の頂点、絶望のそのときが、恵みのみわざの始まりとなります。

このような経験は夏に限ったことではありませんが、まずはこの夏、この神さまとその恵みを体験することができたなら幸いです。



コロナの中で、昼食はソーシャルディスタンスを取っています

神学エッセー 信仰の旅路にて 3 互いの責任



野田 禎

だから何も言わない方が自分のため」そのような思いだったら主は悲しまれるかもしれません。

「あなたのこころは正直直うと思う」というのは二つの面で難しいことがあります。一つは「恥の文化」があります。こう言ったら、相手が恥をかくことになる。また私がおもひ、違っていたら恥をかくという思いがあります。もう一つは、真実を告げられたときに、「そう、ありがとう」と受け止めるよりも、「人格が否定された」と感じやすいのは日本だけに限らないと思います。

イエス様はペテロに「あなたは今夜、鶏が鳴く前に三度わたしを知らないと言います」と言われました。そしてペテロのために祈ったと仰いました。

イエス様が愛をもって真実を語られたとき、ペテロの悔い改めの姿、回復の後、謙って群を導く姿を見ておられたと思います。

ウエスレーの伝道者12則の中に、「その人物に関してあなたが悪いと思うことは、正直に、なるべく早い時期に皆に告げなさい」とあります。

互いの責任ということを考える時に、神様の愛の深さ、そして自分が神様の前に真実であるかを考える助けになる事と思えます。

聖会の季節です。みことばに耳を傾け、互いのために祈り、愛をもって真実を語り、また語られることができれば、より成熟した教会になっていくと思えます。

愛し合うということは、「愛をもって真理を語る」という面もあります。私は何度も、真実に語ってくださいましたことよって励まされ、あるときには矯正されてきました。特に矯正が必要と思われるとき、愛をもって真実を語ろうとするときに、自己保身、「こう言ったら、こんな言葉が返ってくる。

◆前期の学びを振り返って

聖徒の交わり

正規コース 石川 順

「彼らはいつも……交わりを持ち、パンを裂き、祈りをしていた。」

(使徒の働き二章42節)

対面授業が終わった後、ちょっとした時間に私も含め神学生三人で雑談をしていました。雑談がでるの、ありがたいなと思いましたが、オンラインでは雑談がとても難しいと感じます。オンラインでも出来るのですが、(複数人の場合)果たして話している相手は自分のことを見ているのだろうか、また、相手は私が見ていることをわかっているだろうかと心配になり、話しづらいなと感じることがしばしばです。その点、対面だと相手がこちらを見ているかどうかかわかり、こちらが相手を見ていることが相手にも分かります。また、話していない他の人が誰を見ているのかということが分かったりします。人と話す(コミュニケーション)ということは言語だけでは無いということをしみじみ感じます。

昨年度、実習先の教会では、コロナの影響で聖餐式をすることが出来ませんでした。とても残念な

ことです。多くの教会が同じ課題を覚え苦しんだのではないかと思えます。ある教会では、パン(或いはウェハースなど)とぶどう液を、教会員のご自宅に届けて共に聖餐に与るという工夫をされていると聞いてことがあります。しかし、やはり同じ場所で、お互いの存在を感じながら主の聖餐に与りたいなと思います。

コロナ禍において、オンラインというツールがあったからこそ、毎週の礼拝を継続することができたという教会も多くあります。また、神学院の授業が継続できたのもそうです。でも、やっぱり直接会って話したり祈ったりして「聖徒の交わり」がしたいなと思いません。



水曜夜の祈禱会(フェローシップ)は輪になって持たれます

同窓生の近況

61期生

東京 FM 桜ヶ丘教会 ● 星加優和



2013年3月に神学院を卒業して、早8年が過ぎました。

私はいま振り返ると恥ずかしいほどに訓練されるにも値しない者でしたが、それでも受け入れられ、また愛されること、そして「きよめ」の経験をしました。ご指導くださった植木英次先生、河村從彦先生をはじめ、受け入れてくださった実習先の深川教会、板橋教会への感謝は尽きません。全てにおいて足らず、背伸びも明らかであるのに受け入れられたその経験は今でも大きなものです。

妻と子ども3人が与えられました。結婚生活においても、子育てにあっても、教会の働きにあっても、自分の思い描いた理想や計画通りにいかないことがあります。批判的になり外に身を置きやすい自分の性質があります。それが顔を出す度に、「そこにあなたは受肉しているか？」と問われます。何よりも、恵みの経験に導いてくれた神学院生活を懐かしく思い出します。これがあらゆる場面の土台になっています。今後も尊い働きが用いられますように。

神学院スタッフ…恵みの想起

水曜夜の

フェローシップ

寮監 田辺寿雄

コロナで休止していた水曜夜の祈禱会を隔週で再開しました。みんな話し合い、チャペルではなく教室で、交わりを中心とすることにしました。

神学生と神学生のお子さん、神学院スタッフも参加して、机を向き合せて輪になって座り、ドリンクやお菓子もありの家庭的な雰囲気です。今は毎回お一人に救いの証しをしてもらい、最後に互いのために祈って終わります。約一時間、オアシスのような恵みのひと時です(上の写真です)。



学苑だより



●対面とオンラインの併用で進んだ前期授業、そしてテスト週は7月末で締めくくられました。8月9月の夏期実習も霊肉共に守られて、良き奉仕と学びの時となりますように神学生のためにお祈りください。

●6月24日に図書館委員会が開かれました。図書館の資料や環境の整備が検討されています。

●コロナの影響でしばらくベテルハウスでの宿泊受付は停止してききました。ただし日帰りでしたら集会等でホールのご利用は可能ですので、ご希望の方はお問い合わせください。

●秋の入学審査は9月6日(月)に行う予定です。受験希望者は8月23日までに学務課宛お申し出ください。

●今年の秋のオープンキャンパス及び信徒土曜講座は中止となりました。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。6月の会計報告をさせていただきます。

6月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥1,500,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥520,200
教会団体による「神学院献金」
¥416,734
合計 ¥936,935
その他の献金(一時・特別)
¥639,890

・振替：00230-0-10138

教育局



次世代育成のために祈り、語り合い、力を尽くします！

今月号から神学院報と並んで、教育局／信徒局のページを設けることにしました。その時々に対応しい情報をお伝えし、ともに祈ることができたらと願っております。今回は、教育局で始まった新たな取り組みを紹介します。

新しく整えられた 教育局ホームページの 活用をお勧めします！

教育局長 小川宣嗣



<http://fujimidai.holy.jp/IGM/indexkyouiku.html>

「私たちの神であり救い主であるイエス・キリストの義によって、私たちと同じ尊い信仰を受けた方々へ。神と、私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたにますます与えられますように。」(第一ペテロ 1、2)

いつも教育局の働きのために、尊いお祈りとご支援を感謝申し上げます。

この8月より、関係者各位の尊いご愛労とご協力によって、教育局の各部・各課を統合網羅した新しいホームページが整備公開されましたので、そのご紹介とご活用をお勧めいたします。

イムマヌエル総合伝道団の公式サイトを検索するとトップページ

が出て来ますが、その左側に教育局のタグがあり、そこをクリックすると新しい教育局のページに飛びます。そこには、局の二部(教育部・青少年部)と五課(生涯学習課・信徒教育課・青年課・中学生課・教会学校課)それぞれが提供する情報や学びに有益なコンテンツが並んでいます。

数年前に、局の部と課が再編成され、現在の形に落ち着きました。それぞれに積極的な活動を展開して参りました。以前から、各部や各課の活動に良い連携がなされ情報共有をすること、そしてそれらを全国教会の先生方・信徒方に発信することを願っていたことですが、こうしてまとまった形で局全体の活動をご紹介できることを心から感謝しています。

つきましては、ぜひともアクセスしご活用くださって、主イエスの恵みや聖書の真理の豊かさを知っていただけますように、また各世代や各立場にふさわしい活動

や情報、学びの記録が提供されておりますので、それらに参加し、実際に触れて、その祝福を体験し、具体的にお祈りくださると幸いです。できましたら、各教会において、個人もしくはグループでの学びに利用していただいたり、集会の中で用いてくださると幸いです。(このページは、パソコンだけでなく、スマートフォンやタブレットにも対応しています。)

*

教育部・生涯学習課(伝道者対象)では、7月に持たれた若手牧師研修会の発題講演の録画をアップしています。今回のテーマは「牧師の学び」でした。来る10月には、有志の全伝道者を対象として、私たちの教団のアイデンティティの柱の一つ「きよめ」をテーマとしたオンライン研修の時間を計画しています。

信徒教育課(信徒&信徒伝道者対象)では、岩上敬人先生が担当される信徒聖書講座「使徒の働き」の学びが、毎月アップされて公開されています。教会と一緒に聖書を学ぶためにも良い内容です。伝道者の方々にとっても聖書理解に助けとなるでしょう。かつての信徒聖書講座で、ビデオ(VHS)の時代に収録された藤本満先生の「主の祈り」の学びも、今後順番に公開されていきます(現在は、第2回までアップ済みです)。

青少年部・青年課では、6月に持たれた第6回YSBリトリートにおける新コーディネーター・吉

村和記先生によるメッセージや、その際に紹介されたYSBメンバーが制作したすばらしいプロモーションビデオ(必見！)がアップされています。東日本地域篇に続き、西日本地域篇も作成中とのことです。ご期待ください。4名の信徒青年委員が中心となって定期的なグループディスカッションを持っているビルドや、Pなど、ユースの活動報告もあります。今後、ユース対象の大会や活動報告もここに掲載紹介されてゆく予定です。教団の将来を担う青年たちの様子を知って祈りに覚えていただけると感謝です。

中高生課では、5月にスタッフトレーニングキャンプがオンライン開催されましたが、その様子の報告や、今月8月12日から13日にかけて予定されている「とにきゃん2021」の案内情報が掲載されています。

教会学校課では、現在の厳しい状況下でのCS活動に少しでも役立つコンテンツを提供しようと、ウェブでの働きに力を入れていきます。ここには、多くのすぐに使える教材や参考になる情報が満載です。課としては、今後さらに新報紙芝居の製作公開、イベントなどに集まった子どもたちを次回につなげるためのトレーディング・カード作成、子ども向け教理動画やぬりえ紙芝居の音声付き動画の作成と配信など……意欲的な取り組みが計画されていますのでご期待ください。

公報

本部通達

「地を造った主、それを形造って堅く立てた主、その名が主である方が言われる。『わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたが知らない理解を超えた大いなることを、あなたに告げよう。』」(エレミヤ三三・2、3)

コロナウイルスの感染が収まらず緊急事態宣言が再び出る中、先月は集中豪雨で各地に大きな被害が出ました。復旧のために祈りましょう。先月始まった東京オリピックは大幅な制限の中で開催されています。同様に制限下で行われる各地の聖会や、とにキャンにも豊かな恵みがありますようにお祈りいたしましょう。

■本部

▽本部業務について
毎週火曜日のみ、午後1時～4時までに限り業務を行っています。原則として総務局職員が交代で1名常駐することになっていますが、毎月第一火曜日は職員が集まる日となります。

出版事業部は木曜日の業務を交代で常駐者1名を置いています。
▽8月9日(月)～13日(金)の週は夏期休業期間となり、本部、出版事業部の業務はお休みとなりますのでご了承ください。

■国内教会局

▽教区会

四国教区会8月3日(火)～4日(水)

◇「集会献金」についてのお願ひ
6月の「コロナ禍にある教会セミナー」報告で「月定献金はコロナ以前に比べ、変わらずに献げられました」ことが報告されました。

教会へ出席ができず家庭で礼拝の時をもっておられる場合も集会献金を心がけていただけると幸いです。各教会の会計が祝福されますように。

▽引退、休養等の意向のある牧師は、8月末までにブロックアドバイザーにお申し出ください。
*各地域の聖会情報

◇ポプラ聖会(北海道地区)は中止
◇東北聖会(南北台同ズーム開催)7月31日(土)～8月1日(日)

講師||大兼久芳規師
◇北関東聖会(YouTube開催)9月20日(月)

講師||田中進師
◇東関東聖会/11月3日(水)会場||市川サンシティ

講師||古波津保秀師
◇林間聖会(Zoom開催)8月9日(月)/講師||佐藤信行師

◇静岡聖会(DVD聖会)11月3日(水)/講師||浜田耕三師

前後に各教会開催
◇中京聖会(オンライン開催)9月19日(日)午後/講師||小坂嘉嗣師(日本宣教会狭山教会)

◇北越聖会/10月31日(日)/講師||浜田耕三師 新潟、北越地区

共に録画を用いて各教会で開催
◇関西聖会(YouTube開催)9月20日(月/祝)午前/講師||南場良文師

◇四国聖会 未定
◇中国聖会 未定

◇九州聖会(YouTube配信)8月18日(水)/講師||江上環師(日本ナザレン教団青葉台教会)

◇沖縄聖会/11月7日(日)講師||岩上祝仁師

■世界宣教局
▽世界宣教局運営委員会 8月10日(火)午前10時

▽宣教師が交代した台湾では、引き続き事務が無事に終わりました。平瀬義樹師は6月29日(火)に帰国され、二週間の自主隔離期間後、武蔵村山教会へ赴任されました。

これまでの尊いご奉仕に主の豊かな祝福とお報いがありますように。
▽フィリピンの豊田常喜・恭子宣教師は、帰国が許されないうままご奉仕を続けておられました。

局やウェスレアン教団、神学校とも話し合い、現地において約半年間の休暇期間(サブティカル・リープ)を取られることになりました。

良き区切りと休養の時となりますようにお祈りください。

▽教報8月号より、日本で活動されているIWF宣教師方からの近況や活動報告などを広げた翼欄に掲載することになりました。

IWF宣教師方を知り、祈る機会となりますように。

■教育部
〈教育部・信徒教育課〉

▽各教会・個人で自由に視聴可能な信徒向け聖書講座(無料)提供中
内容||「使徒の働き」の学び(現在は第9回目まで公開中)

講師||岩上敬人師(丁E.A総主事) 教団公式サイト「教育局||信徒教育課」からアクセス可
▽信徒伝道者スクーリング(Zoomオンライン) 日時||8月31日(火)午前9時半～午後4時

内容||聖書講義と説教演習、コインア等
窓||野田禎師(教育部・生涯学習課)

▽牧師研修会(有志の牧師対象 Zoomオンライン) 日時||10月21日(火)午後1時半～4時

テーマ||「私たちのアイデンティティ(きよめ)の再確認を」 発題担当者||葛田順子師、小川宣嗣師

プログラム||デイポーション、発題&質疑応答、グループ別分かち合い
申込窓口||田辺寿雄師、佐藤信行師

▽青少年部・青年課
▽ビルド(YS)を名称変更) 会合||毎月1度、テーマを決めてZoomで開催、毎回15～20名程度の方々が参加中(担当窓口||吉村和記師、川村和臣師)

〈青少年部・中高生課〉
▽第14回とにキャン(2021) 日時||8月12日(木)、13日(金)

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇CCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

発行人 岩上祝仁 編集者 寺村秀嗣

発行所 東京都千代田区神田駿河台一

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇CCビル

イムマヌエル綜合伝道団本部

発行人 岩上祝仁 編集者 寺村秀嗣

発行所 東京都千代田区神田駿河台一

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇CCビル

(Zoomオンラインによる開催) 講師||大嶋重徳師(鳩ヶ谷福音自由教会牧師)

テーマ||「神からのエール」 お楽しみプログラム||大抽選会、オンライン脱出ゲーム、マジックグランプリなど

申込||チラシのQRコードを用いて(牧師からの登録ワードが必要) (問い合わせ窓口||阪下謙師)

■聖宣神学院
▽夏期実習任地(8月2日(月)～9月26日(日))の8週間。前期/後期。順不同・敬称略

石川順(聖宣神学院/東京フリー・メソジスト桜ヶ丘)

林眞光(蒲田シオン) 森徳子(日本イエス小松島栄光)

▽秋の入学審査は9月6日(月)。出願締切は8月23日(月)です。必要な方は資料を請求し、願書を提出してください。

▽8月も神学院祈り会はお休み。
■出版事業部

▽全体部会 9月3日(金)13時

▽葛田直子師(金沢教会)は5月にガンの摘出手術を受け、6月22日、無事に退院されました。

▽土屋忠乃扶師(引退牧師)の住所は祈りのネットワークにあるとおり、「相模原市中央区向陽町5-3」が正しい住所です。

教報PDFパスワード||3431

新生宣教団 定価 一部110円(税込) 郵便振替 001107133609

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇CCビル

消息 報告

